

大阪市の下水道

重点的な取り組み

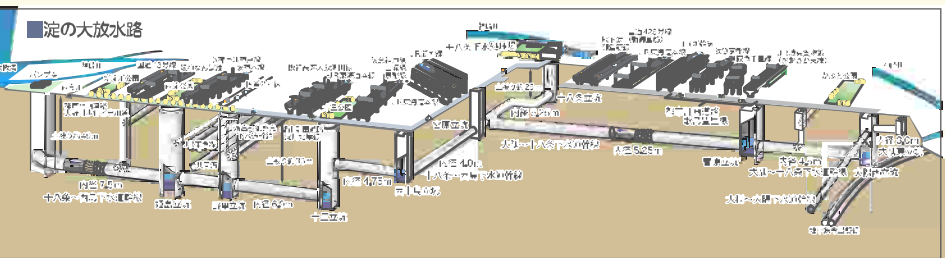
浸水のない安全で快適なまちをめざして ~浸水対策~

清らかな水環境の創出をめざして ~合流式下水道の改善~

大阪地域のうち上町台地などの一部を除いた約90%は、ポンプ排水にたよらなければならない雨に弱い地形となっています。大阪市の下水道は、昭和50年代には、ほぼ全市域に整備されましたが、市街化がすすみ土地が舗装化されるなど、雨の大半は一時的に下水道管に集められるようになったため、浸水のリスクが高まり、浸水対策としての下水道の役割がさらに重要となりました。

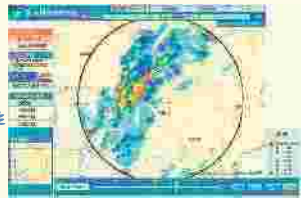
浸水のない安全で快適なまちをめざして、下水道幹線の整備やポンプ場の増設をすすめているほか、道路や宅地に降った雨を下水道管へと集める「ます」の増設や、「下水道管のネットワーク化」などの地域の特性に応じた局地的な浸水対策をあわせてすすめています。

また、このようなハード対策のほか、降雨レーダーの整備による情報発信や水害ハザードマップの提供などのソフト対策も実施しており、ハード対策とソフト対策さらには自助、共助など総合的な組み合わせによる浸水対策をすすめています。



インターネットによる情報の提供【大阪市降雨情報】

ホームページも見てね



パソコン <http://www.ame.city.osaka.lg.jp/pweb/>
スマートフォン <http://www.ame.city.osaka.lg.jp/mweb/>

雨水を貯めてみませんか

雨水貯留タンク普及促進助成制度

大阪市では、雨水貯留タンクの普及促進を図るため、法人等一部の助成する制度を設けています。

※詳しくは津波局施設設備課へ
ILL06 6615 6454



下水道には、雨水と家庭等から出る汚水を別々の下水道管に集めて流す分流式と、雨水と汚水を同じ下水道管で集める合流式の2通りがあります。大阪市のほとんどの地域では、合流式により下水道を整備しています。合流式下水道では、雨の強さが一定の水準を超えると雨水とともに汚水の一部やごみ等が河川などに直接放流され、水質汚濁の原因のひとつになっています。

このため、より清らかな水環境を創り出すために、降雨初期の汚れた雨水やごみなどを貯留し、川に流れだすことを防ぎ、降雨の後に貯留した雨水を下水処理場へ送水してきれいな水に処理する「平成の太閤下水」をはじめとした合流式下水道の改善のための施設整備を進めています。「平成の太閤下水」は、平成27年3月から運用を始めており、この対策により10年に1回の大雨でも汚水などが川に流れ出なくなります。

道頓堀川・東横堀川の水質浄化対策

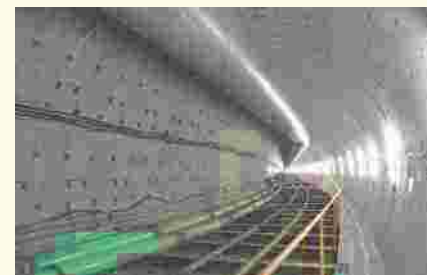


掘り出しの合流式下水道の口



掘り出しの合流式下水道の吐き口

平成の太閤下水

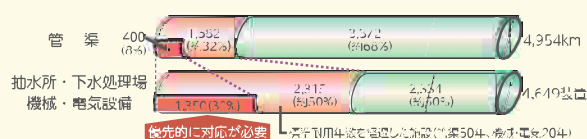


次世代へより良い下水道を引き継ぐために

大阪市では、古くから下水道整備を進めており、老朽施設が増えています。放置すると下水道管の破損による道路陥没や、抽水所・下水処理場設備の能力低下により維持管理費などが著しく増える恐れがあります。このため、老朽施設を効率的に管理しながら、社会の新たなニーズに対応する高機能な施設に計画的に改築する必要があります。

そこで、施設は引き続き下水道管理者である大阪市が責任を持って保有する一方で、大阪市の持つ技術・ノウハウを受け継ぐ新しい株式会社を設立、運転維持管理を包括委託する「上下分離方式」を採用し、民間の自由度を活かした効率性・経済性と、公共の持つ持続可能性を合わせた施設の管理を実施し、市民の安全・安心を支えてまいります。

老朽施設のストック(平成29年度末時点)



※ 優先的に対応が必要: 標準耐用年数で超過した施設(管渠50年、抽水機等70年)

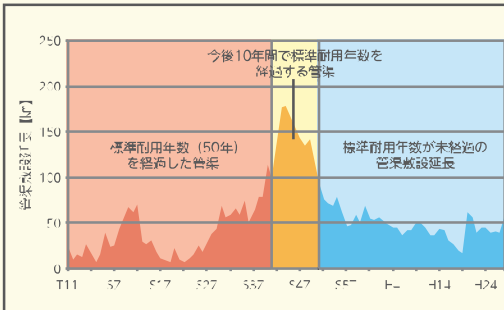


破損した老朽管



老朽化したスクリーン設備

管渠敷設延長の推移



下水道の維持管理

下水道が役割を果たすためには、施設の適正な維持管理が大切です。日々の下水道施設の維持管理では、下水道の清掃を積極的にを行っています。

